

計画主体名	南種子町		
計画期間	H26～H28	総事業費（交付金）	900千円（495千円）
実施期間	H26		

1 計画全体について

項目	チェック欄	判断根拠
目標及び事業活用活性化計画目標が、農山漁村の活性化のための定住等及び地域間交流の促進に関する法律及び同法に基づき国が策定する基本方針と適合しているか	<input type="radio"/>	「定住の促進に資する基盤整備の円滑化」を目標に嘉掲げており、適合している。
市町村総合計画、農業振興地域整備計画、土地改良事業計画、森林・林業基本計画、特定漁港漁場整備事業計画その他各種関連制度・施策との連携、配慮、調和等が図られているか	<input type="radio"/>	関連事業である「農地環境整備事業（一般型）郡川地区」は、土地改良事業計画において、平成28年度新規採択予定地区として位置づけられている。
活性化計画及び交付対象事業別概要は関係農林漁業者をはじめとした地域住民等の合意形成を基礎としたものになっているか 活性化計画の策定にあたり、女性の意見や提案などを聞く機会を設けているか	<input type="radio"/>	関係受益者及び地域住民（男女）に概要を説明し、全員に同意を得た上で本計画を作成している。
事業の推進体制は確立されているか	<input type="radio"/>	地域で全体説明会を開催し、合意形成を図っている。
目標及び事業活用活性化計画目標と事業内容の整合性が確保されているか	<input type="radio"/>	「定住等の促進に資する基盤整備の円滑化」を目標としており、狭小及び不整形なほ場の整備及び農地の集団化により、農作業の効率化ができる環境を整えることで、労力の軽減による生産性と営農意欲の向上を図り、集落内の定住の促進を図ることから、目標との整合性は確保されている。
計画期間・実施期間は適切か	<input type="radio"/>	計画期間・実施期間は、事業着手前の期間を設定しており適当である。
交付金要望額は交付限度額（事業費×交付額算定交付率）の範囲内か	<input type="radio"/>	交付金要望額は、実施要綱及び実施要領の別表に定める交付金算定交付率に基づき算定し、範囲内である。 交付金要望額495千円 ≤ 495千円（＝900千円×55%）

2 個別事業について

項 目	チェック欄	判 断 根 拠
自力若しくは他の助成によって実施中又は既に完了した施設等を本交付金に切り替えて交付対象とするものでないか	○	交付金により、新たに実施する事業である。
増改築等若しくは合体又は古材を利用した施設整備を行う場合は、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金実施要領の運用に定める基準を満たしているか	-	
交付対象とする施設等は減価償却資産の耐用年数等に関する省令（昭和40年大蔵省令第34号）別表等による耐用年数がおおむね5年以上のものであるか	-	
事業による効果の発現は確実に見込まれるか		
費用対効果分析の手法は適切か（農山漁村活性化プロジェクト支援交付金費用対効果算定要領（平成19年8月1日付け19企第106号農林水産省大臣官房長通知）により適切に行われているか）	○	農林水産省が定めている費用対効果算定要領により「農用地集団化」は、1.0とみなされている。
上記の費用対効果分析による算定結果が1.0以上となっているか	○	上記により1.0である。
事業内容、事業実施主体等については実施要綱等に定める要件等を満たしているか	○	受益面積が5ha以上であり、かつ、換地計画を定める土地改良事業着手の見込みが確実である。また、関係農家から点在する農地の集団化の希望が出ており、集団化率40%以上は達成できる。
個人に対する交付ではないか、また目的外使用のおそれがないか	○	農用地集団化事業であり、多数の受益者が関係する事業である。
施設等の利活用の見通し等は適正か	-	
地域間交流の拠点となる施設にあっては当該地区の入り込み客数や都市との交流状況（現状と今後の見込み）を踏まえているか	-	
近隣市町村の類似施設等の賦存状況と利用状況等を踏まえているか。	-	
利用対象者、利用時期など施設の利用形態を検討しているか	-	

施設等の規模や設置場所、地域における他の施設との有機的な連携等、当該施設等の利用環境等について検討されているか	—	
施設の利用や運営等に当たって、女性参画への配慮や促進のための取組がなされているか	—	
事業費積算等は適正か	—	
過大な積算としていないか	○	経営体育成換地等調整事業作業要領に基づき積算を行っている ので、過大な積算ではない。
建設・整備コストの低減に努めているか		
附帯施設は交付対象として適正か（必要性はあるか、汎用性の高いものを交付対象としていないか）	—	
備品は交付対象として適正か（汎用性の高いものを交付対象としていないか）	—	
整備予定場所は、集客の立地性、農林漁業者の利便性等、施設の設置目的から勘案して適正か	—	
施設用地が確保されている又は確保される見通しがついているか	—	
体験交流機能に加え宿泊機能を備えた施設を整備する場合には、農山漁村活性化プロジェクト支援交付金実施要領の運用（平成19年8月1日付け19企第102号農林水産省大臣官房長通知）に定める基準を満たすとともに、その必要性について十分に検討しているか	—	
交付対象は施設別上限事業費及び上限規模の範囲内か	—	
処理加工・集出荷貯蔵施設については、「強い農業づくり交付金実施要領」（平成17年4月1日付け16生産第8262号農林水産大臣官房国際部長、総合食料局長、経営局長通知）別記Ⅱの第1の2の（4）のウの基準に照らし適正であるか	—	
地域間交流拠点については、延べ床面積㎡当たり29万円以内かつ延べ床面積1,500㎡以内であるか	—	
地域連携販売力強化施設については、以下の内容を満たすものとなっているか	—	
地域内外又は地域間の相互連携の促進のための取組がなされているか	—	
生産者の販売力強化・ブランド化等に資するために必要な施設であるか	—	

	1年を通して運営されるものであり、継続的に雇用と所得を生み出す施設であるか	—	
	6次産業化や女性参画の促進に寄与する施設であるか	—	
	事業実施主体の負担（起債、制度資金の活用等を含む）について十分検討され、適正な資金調達計画と償還計画が策定されているか	○	事業費のうち町負担分については、起債を活用し資金調達を行う計画である。
	入札方式は一般競争入札又はこれと同等の競争性のある契約方式によるなど適切なものとなっているか。一般競争入札に付さない場合は、その理由は明確か	○	地元のニーズに精通した公益法人に委託するため一般競争入札は適さない。
	整備後において施設の管理・運営が適正に行われる見込みであるか	—	
	維持管理計画は適正か（施設の管理・更新に必要な資金は検討済みか）	—	
	収支を伴う施設等にあっては収支計画を策定しているか。また、事業費が5,000万円以上のものについては経営診断を受け、適正なものとなっているか	—	
	他の事業との合体施行等の場合、事業費の按分等が適正に行われているか	—	
	他の事業への重複申請（予定も含む。）はないか（ある場合には、事業名を記載すること。）	—	

注1 項目について該当が無い場合はチェック欄に「—」を記入すること。

2 活性化計画を公表する場合、事前点検シート及び判断の根拠となった資料についても併せて公表するものとする。